

# 卒業証書授与の介添役は 女性がしなければならないか?!!

3月—どこの学校でも卒業式の季節を迎えるが、卒業式の折、学校長が卒業生に卒業証書を手渡す側で、学校長に卒業証書を手渡すいわゆる卒業証書授与の介添役は女性が適しているという考えが、学校現場で、今だにまかり通っていることをみなさんはご存知だろうか。

介添役の決め方は学校によってさまざまであるが、一般に若い女性である場合が多い。私の前任教では、家庭科の教員(全員女といえよう)が長い間行っていたが、どうして「家庭科」の教員がしなければならないのかという当事者からの抵抗をきっかけに他の女性教員もやりたがらないことも加わって、女性同志が険悪な関係になってしまった。そんなことを経験した私は現勤務校においても、家庭科の若い教員が4～5年やってきたが、「もうやりたくない。でも個人的に頼まれるとことわりにくい」と嘆いていたため、職員会議で「女だからという理由で人選するのではなく、男女関係なく〇〇の係がすると決めたらどうか」と提案した。その結果、介添役は証書の名前と卒業生の顔が一致することが必要なので3学年団の教員の中から学年部会で人選することに決定した。そこで3学年団では、係の仕事がない2名(30代後半の女性と30代前半の男性)の中から選ぶことになったが、女性も男性もやりたがらない中で、結局じゃんけんで負けた男性に決まった。

ところがである。この事に対して教頭の方から男性でなく女性にやらせたいとクレームがつき、職員会議の場で再検討することになった。会議での意見は次のように大まかに区分される。

## 〈ぜひ女性にやらせたい意見〉

- (1) 女性の持つ華やかさで卒業式を飾ってほしい
- (2) 儀式の美学として考えてほしい

## 〈女性だからという理由で選んでほしくない意見〉= 女性3人発言

- (1) 介添役は女性にしかできないものではない。当然男性もできるもの。
- (2) 介添役に華やかさは必要でない。
- (3) 全ての女性が華やかとは限らないし、選ばれなかった女性は美しくないことになる。



年賀

右は一月六日、左は二月一日付  
「朝日新聞」です。

気で、米国が設置する極点のアムンゼン・スコット基地の隊員たちから歓迎を受けたという。  
日本人の地上からの極点到達としては、雪上車による第九次南極観測隊（六八年、村山雅美隊長）、大森りによる舟津圭三さん（八九年）に続いて三度目。

### カナダのミスコン 45年間の歴史に幕

【トロント4日11時事】カナダで四十五年の歴史を持つミスコンテストが廃止されることになった。主催者のベートン・ブロードキ

ヤスティンク社がこのほど発表したものが、廃止の背景には「ミスコンテストは女性べっぴん」という批判の高まりがある。

同コンテストは、カナダで唯一の全国規模のミスコンテストで、高校卒以上の十八歳から二十四歳までの子供のいない未婚女性を対象に、毎年「ミス・カナダ」を選定。コンテストの模様はベートン社傘下の有力放送局で放映され、高視聴率を誇ってきた。同社では廃止の理由として、運営費用の増大とともに、コンテストへの批判を受け止めたことを示唆した。

### 「ミスコン」に抗議し 既婚女性と男性応募

大分市

大分市役所が、若い独身女性を対象に募集している「ミスみどり」に、応募締めの切りの三十一日、ミスコンテストに反対している同

市内の市民運動家の既婚女性（匿名）と男性弁護士（匿名）が申し込んだ。応募の理由に「市役所の募集は、市役所の宣伝活動に過ぎない」として、市役所の募集を批判している。

あつと ミス・コンテスト に反対してつづけて来た私達に  
新年早々、うれしいニュースがとびこんで来ました。  
海内＝ラッポ。同じ九州の大分市に ミス・コンテスト 反対の声が  
あがっています。私達とは少し勇気付けられています。  
四月が来れば、又や ミス・コンテスト の募集がはじまりそう。  
今年も元気に、反対の行動をはじめます。

~~~~~ さらけ、うれしがるのは ~~~~~

### 国立婦人教育会館

埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地  
〒355-02 ☎ 0493-62-6711(代表)  
FAX 0493-62-6720(事業課)  
0493-62-6721(情報交流課)

2月初め、ぼんらんさん1人 Kさんは全談に教育会館  
に2泊しました。本館2階の情報センターへ。あちこちと  
胸ときめかせて上り下り行きました。アタマツ！ 400種以上の  
各種婦人団体が出しては機関誌の中に「ぼんらんさん」を  
発見。たまたま、手利の粗末な海苔がら、しつかり展示に  
ありました。マレシカッ！



「ここにあって、ぼんらんさん」

格を制限するのは性や年齢による差別に当たり、違憲だ」としている。

同市によると、「ミスみどり」は市や市緑化推進協議会（会長・木下敬之助市長）などが主催して一九七五年から毎年募集している。これまで六十三人が

今年度の応募資格は一月三十一日現在で満十九歳から二十四歳の未婚女性。今年度の応募者は約百人。

選考に応募した弁護士は「なぜ緑化推進をPRする

ミスとなり、最近では、毎年三人程度が選ばれている。

のが、主婦や男性であって

は「市政とかかわるきつかけが少なく若い女性に、町への関心を持ってほしい、という趣旨で作られたと聞

は応募資格外ということ